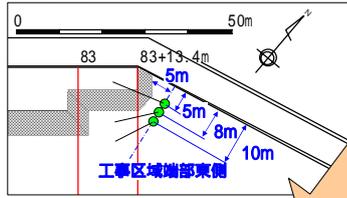


これまで観察された砂地の生物出現種と、今後のさらし砂における生物相について

- ・平成18年の石積み護岸施工直後より、3地点で観察を実施している。
- ・観察では、ほぼ毎回どの地点でもアサリが確認されている。

観察地点図



砂地を好む生物の定着が予測されるが、加入する生物の種類は投入砂の粒度等の性質に左右される。

出現種	H18年9月	H19年1月	H19年4月	H19年8月	H20年1月
植物	ハネモ属の一種	-	-	-	-
動物	クロガネイソギンチャク	-	-	-	-
	スゴカイイソメ	-	-	-	-
	アラムシロガイ	-	-	-	-
	ホンビノスガイ	-	-	-	-
	アサリ	-	-	-	-
	マルスタレガイ科	-	-	-	-
	異尾節目(ヤドカリ類)	-	-	-	-
	イソカクモガニ	-	-	-	-
	ヒライソガニ	-	-	-	-
	スジハゼ	-	-	-	-

出現種	H18年9月	H19年1月	H19年4月	H19年8月	H20年1月
植物	ハネモ属の一種	-	-	-	-
動物	アラムシロガイ	-	-	-	-
	アサリ	-	-	-	-
	マルスタレガイ科	-	-	-	-
	異尾節目(ヤドカリ類)	-	-	-	-
	ケブサイソガニ	-	-	-	-
	ヒライソガニ	-	-	-	-
	ハゼ科	-	-	-	-
	マハゼ	-	-	-	-
	スジハゼ	-	-	-	-

出現種	H18年9月	H19年1月	H19年4月	H19年8月	H20年1月
植物	ハネモ属の一種	-	-	-	-
動物	トゲアメフラシ	-	-	-	-
	ツバサゴガイ	-	-	-	-
	アラムシロガイ	-	-	-	-
	ホンビノスガイ	-	-	-	-
	アサリ	-	-	-	-
	ハカガイ	-	-	-	-
	マルスタレガイ科	-	-	-	-
	ケブサイソガニ	-	-	-	-
	ヒライソガニ	-	-	-	-
	ハゼ科	-	-	-	-
	マハゼ	-	-	-	-
	スジハゼ	-	-	-	-
	コナチ	-	-	-	-

5. 各試験の実施計画(案)

(1) 試験のモニタリング計画(案)

区分	項目	目的	方法	時期(間隔)	数量等
検証項目	さらし砂	・ 隅各部の微地形の変化の把握 ・ さらし場形成の可能性の把握等	投入 地形測量 生物観察	春季：6月(H20) 年2回+イベント(台風等の高波)後 モニタリングと同時期 夏季：9月(H20) 冬季：1月(H21) 春季：4月(H21) の年3回 モニタリングと同時期	・ 大潮時に公開で実施 ・ さらし砂投入範囲の中で4地点 ・ 方形枠(50cm×50cm)による目視観察 ・ 潮間帯で1箇所
	緑化	緑化の適用性の確認	暴露試験	平成20年度中	・ 平成20年度施工箇所(L=20m)のA.P.+3.0m以上となる範囲で複数の試験手法で実施。 ・ 発芽、生育、定着を確認する。 ・ 試験は公開で実施 ・ 試験時期は専門家の指導を得ながら実施する
検証材料	波浪・流況	物理環境への外力(波、流れ)把握を目的とする。 ・ 波高・波向の計測 ・ 流れの計測(海底面上約1m)	波高・流速計の設置	・ 9月と10月 ・ 3月と4月 最長60日 ×2回/年	・ 測線No. 82の護岸前面の1箇所(30日～60日連続観測；目的とする外力が把握される時点までとする)
	青潮時の溶存酸素量測定 生物環境への外力把握を目的とする。	D0計による測定	青潮発生時	・ 第1工区の完成断面石積のり先。未施工区間の直立護岸前面	

(2) モニタリング調査位置

